

1 題材名 ねん土にまほうをかけたら

2 題材の目標

材料や用具、友人と関わり、いろいろな表し方を試しながら、表し方のよさや面白さなど感じ取ったことを基に自分のつくりたいもののイメージを膨らませ、形や組合せなどを工夫して表す。

3 題材設定の理由

本題材は、手や体全体を十分に働かせて粘土や用具を使い、友人と関わりながら、形や組合せなどのよさや面白さを感じ取り、想像した楽しい世界をつくるものである。材料としては、土粘土（以下「粘土」という。）を扱い、手や体全体を十分に働かせ、感触を確かめながら立体表現を楽しむ題材である。また、身近にある材料を用具として使い、表したいものに合わせて工夫する体験を深める。いろいろな表し方を試したり友人と関わったりしながら、材料や用具からの気付きを深め、自分のイメージを膨らませ、工夫して表すことができる題材であると考えられる。

形や表現の工夫に関する意識調査（平成24年7月6日実施、調査人数33人）から、粘土で形をつくるときに、粘土べら以外の材料や用具を使ったことがある児童は13人、イメージがもてないときに他の材料や用具を探したり試したりした児童は3人と、材料や用具との関わりが十分ではないことが分かった。

そこで、児童が材料を基に表したいことを発想し、表し方を考えつくりすることができるようにするために、粘土の扱いに慣れ、材料や用具、友人と十分に関わりながらつくりだす活動を展開する。まず、導入の段階で粘土に触れ、いろいろな表し方を試す活動を位置付ける。第一段階として、粘土の扱いに慣れ、その感触や可塑性などの特性、友人の表し方の工夫に気付き、よさや面白さを感じ取ることをねらいとした活動を行う。第二段階として、用具を使って試しながら表し、形や組合せなどについての気付きを深める活動を充実させる。次に、製作の段階で、材料や用具、友人と関わる中から生まれた気付きやイメージを基に、表し方を考えてつくりだすことができるようにする。題材全体を通して児童の活動の様子や学習カードの記述を基に一人一人の思いを把握し、自分のイメージをもって活動することができるように指導・助言する。

以上のように、材料や用具、友人と関わりながら形や組合せなどの感じを捉え、自分のイメージを膨らませてつくりだす活動を展開することで、思考・判断し、表現する力を育てることができると考え、本題材を設定した。

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
① 粘土や用具に進んで関わり、つくりだしたり見たりする活動を楽しもうとしている。	① いろいろな表し方を試しながら、自分のつくりたい形や組合せなどを思い付いている。 ② 自分のイメージに沿って「まほうのねん土で〇〇ランド」の形や組合せなどを考えている。	① 粘土や用具、友人の表し方のよさや面白さなど感じ取ったことを基に、形や組合せなど、表し方を工夫している。	① 自他の表し方の工夫や友人の作品への思いに気付き、よさや面白さを感じ取っている。

5 指導と評価の計画（5時間扱い）

次	時間	○ねらい ・学習活動	評価規準 (方法)	〔共通事項〕の視点
1	① ②	○粘土に触れ、いろいろな表し方を試す。 ・手や指、掌などを使って試す。 ・用具を使って試す。 ・表し方に名前を付ける。 ・試した表し方を紹介し合う。	関－①（観察） 発－① （観察、対話、 学習カード）	自分の感覚や材料や用具、友人と関わる活動を通して形や組合せなどの感じを捉え、自分のイメージをもつ。
2	3 4	○粘土のよさや表し方の面白さが生かせるように工夫して「まほうのねん土で〇〇ランド」をつくる。 ・試したことや気付いたことを生かして用具を使い、工夫して表す。	技－① （観察、作品） 関－① （観察、対話） 発－② （観察、対話）	粘土や用具の特性を生かした形や組合せなどのよさや面白さを感じ取りながら、自分のイメージを膨らませる。
3	5	○自他の作品のよさや面白さを感じ取る。 ・友人と話し合いながら活動を振り返り、学習カードに感想を書く。	鑑－① （観察、学習カード）	形や組合せなどの感じを捉え、よさや面白さを感じ取る。

6 本時の学習

(1) 目標

粘土や用具、友人に関わり、いろいろな表し方を試しながら、自分のつくりたいものの形や組合せなどを思い付くことができる。

(2) 準備・資料

教師…粘土、粘土板、シート、竹串、網、糸、貝殻、紙皿、油性ペン、学習カード、バケツ等

児童…へら、つまようじ、割り箸、フォーク、スプーン、クッキー等の抜き型、網、糸、ぞうきん、筆記用具等

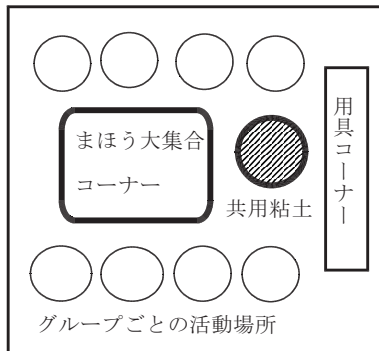
(3) 展開（第1・2時）

学習活動・内容	
1 学習課題をつかむ。 ねん土にまほうをかけよう。	・指導上の留意点、◎評価、◇言語活動の工夫、 <u> </u> は〔共通事項〕の視点から ・粘土でつくった面白い表し方を提示することで、本時の活動への意欲を喚起する。 ・粘土の基本的な扱い方を確認し、前半は手や指など体全体を使い、楽しみながら表し方を試すことができるようにする。
2 粘土の扱いに慣れ表し方を試す。 ○手や指、掌を使って (1) 形をつくるまほう ・丸める、ちぎる、ひねる等 (2) 高くするまほう ・伸ばす、積む、並べる等 (3) 自分で考えたまほう	・後半はいろいろな用具の使い方を例示し、 <u>形や組合せなどのよさや面白さ、工夫についての視点を捉えさせる。</u> ・何度もつくり直したり、用具を試したりしてもよいことを伝え、主体的な活動を促す。 ・体全体を使って多様な表し方を安全に試せるように、用具の使い方や活動場所について助言する。 ◎粘土や用具に進んで関わり、つくったり見たりする活動を楽しもうとしている。 <関心・意欲・態度>（観察）

○ 用具を使って

- (1) 薄くするまほう
 - ・切る, 削る, のす等
- (2) 模様をつけるまほう
 - ・押す, かく等
- (3) 自分で考えたまほう

○ 組み合わせて



- 3 友人の表し方のよさや面白さについて話し合い, 付箋に書いて交換する。
- 4 本時の学習を振り返る。
- 5 後片付けをする。

- ・活動が滞りがちな児童には, 友人が使った用具を試したり, 友人と一緒につくったりするよう助言する。
- ・新たな発想や表し方に向かう姿勢を認め, 紹介する。
- ・用具を友人と交換してもよいことを告げ, 友人と関わりながら, 友人の表し方の形や組合せなどのよさや面白さを感じ取り, たくさん試すことができるようにする。
- ◇各自の表し方に名前を付けて, まほう大集合コーナーに展示し, 自由に見たり話し合ったりして, 形や組合せなどのよさや面白さを感じ取りながら活動できるようにする。

- ◎粘土や用具, 友人に関わり, いろいろな表し方を試しながら 自分のつくりたい形や組合せなどを思い付いている。
<発想や構想の能力> (観察, 対話, 学習カード)
- ・表したいものが思い浮かばない児童には, まほう大集合コーナーの作品を参考に, 形や組合せなどが面白いと感じるものを試してみるよう助言する。

- ・試したものをグループごとに持ち寄ることが容易にできるように紙皿を活用する。
- ◇友人の工夫している点や 形や組合せなどのよさや面白さが感じられる表し方について付箋に記入し話し合うことで, 自分のこれからの表現や次時の学習の手掛かりとする。
- ・本時の学習の成果を認め, 次時の学習に生かすことができるようにする。
- ・粘土の保管や用具の安全な片付けの仕方について指導する。